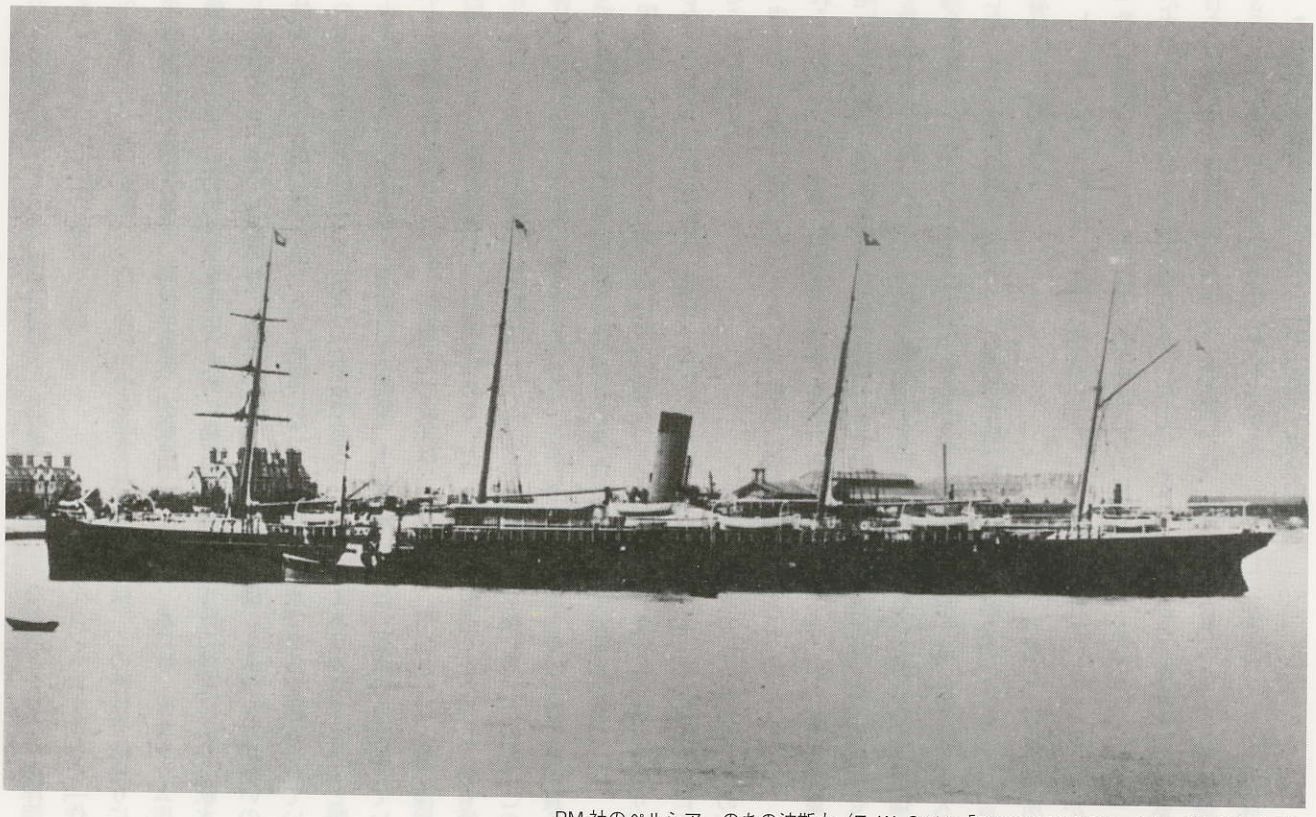
前身は英国 ホワイト・スター・ラインの有名客船

文・山田廸生（日本海事史学会副会長）

トーマス・イズメイ（筆者所蔵）



PM 社のペルシア、のちの波斯丸（E. W. Smith「Passenger Ships of the World」より）

波斯丸（ぺるしあまる）

≪主要目≫ 貨客船、鋼製、東洋汽船所有。総トン数4,380トン、載貨重量トン数5,000トン、長さ130.3メートル、幅12.7メートル、主機3連成汽機1基、出力3,500馬力、最高速力15ノット。旅客定員1等98人、3等313人（以上は大正5年版『日本汽船件名録』による）。1881（明治14）年英ハーランド&ウォルフ社（Harland & Wolff, Belfast）でホワイト・スター・ラインのコプティック Coptic として竣工。1904（明治37）年米パシフィック・メイル社に売却されペルシア Persia と改名。1915（大正4）年東洋汽船が購入し波斯丸と改名。1926（昭和元）年解体

横浜に来たトーマス・イズメイ

英ホワイト・スター・ラインの中興の祖トーマス・イズメイは1869（明治2）年、リバプールにオセアニック・スチーム・ナビゲーション社を設立した。新会社はホワイト・スター・ラインの名で広告されたので、このほうが正式社名より有名になった。

設立と同時にトーマスは、大西洋横断航路に投入する新タイプの汽船4隻をベルファストのハーランド&ウォルフ社に発注した。3707総トンの「オセアニック」と、同型船3隻である。以後、同社のおもな客船はハーランド&ウォルフ社で建造された。

「オセアニック」は近代客船の原型といわれている。それまで船尾部に設けられていた1等客室とダイニングサロン（食堂）を船体中央部に配置したのは、この船が最初である。この結果、スクリュー推進による不快な振動が気にならなくなった。蛇口をひねると真水が出る洗面台も客室に備えられた。

1875（明治8）年、「オセアニック」は僚船2隻とともに、オクシデンタル&オリエンタル汽船会社（O&O社）にチャーターされ、サンフランシスコ～横浜～香港の太平洋航路に転じた。O&O社は太平洋航路の運航を目的に、米国の鉄道企業家が主体になり、ホワイト・スターと提携して設立された会社である。本社はロンドン。士官は英国人で、クルーは香港で雇った清国人であった。

「オセアニック」がリバプールから、スエズ運河、香港、横浜を経てサンフランシスコに回航されたのは同年4～6月である。旅客を乗せての航海だった。トーマス・イズメイも妻のマーガレットとともに乗船した。同船が横浜に寄港したのは6月11～12日。イズメイ夫妻は上陸して横浜見物をしたはずだ。

ともあれ、世界客船史上の超有名人と有名船が横浜を訪れているという史実は、記憶すべきことである。ちなみに同船はこのとき、横浜～サンフランシスコを16日10時間という画期的な短日数で航海した。

東洋汽船がわずか9万ドルで入手

「波斯丸」の前身「コプティック」と姉妹船「アラビック」は、O&O社の太平洋航路就航を目的に、ホワイト・スターが建造した汽船である。「オセアニック」の拡大型といえるが、10年後の誕生だけにサイズが大きく、船体も鉄製から鋼製に代わっている。

「コプティック」の竣工は1881（明治14）年。東洋への回航の前に、リバプール～ニューヨークの大西洋航路を2往復した。処女航海を指揮した船長はエドワード・スミス。あの「タイタニック」沈没時の船長である。1884（明治17）年には、ホワイト・スターと豪州海域を支配する英社との合弁運航に参加し、英国～ニュージーランド～南米～英国の東航世界一周航路に就航した。

1894（明治27）年には主機をコンパウンド汽機から3連成汽機に換装した。翌年、「オセアニック」の撤退にともない太平洋航路に復帰。1906（明治39）年まで同航路にあったが、同年末、米パシフィック・メイル社（PM社）の手に渡り「ペルシア」と改名、引き続き太平洋を往復した。ちなみに1897（明治30）年、O&O社時代の「コプティック」に東洋汽船の浅野総一郎がサンフランシスコから横浜まで乗船している。太平洋航路の開設交渉で渡米した帰途であった。

東洋汽船が同船をわずか9万ドルで入手し「波斯丸」の名で香港～横浜～サンフランシスコに投入したのは、第1次大戦中の1915（大正4）年である。東洋汽船は同じPM社の1万総トン型の「コレア」「サイベリア」を2隻400万ドルで買っている。老朽船とはいえ9万ドルは安い。大戦末期には、米国の要望を受け、軍用船隊の1隻として米国将兵をフランスへ輸送する軍務に従事した。

大戦後は太平洋に復帰。老骨に鞭打って頑張ったが、新鋭大型船に対抗できなかった。1922（大正11）年には、新設の神戸～ジャワ航路に転じた。その後、横浜に係船。1926（昭和元）年、大阪で解体された。

大正15